

あひるが丘保育園 保育課程

<p>保育理念</p>	<p>社会福祉法人 洛西永正福祉会の運営する保育園は、児童福祉法に基づき、「保育に欠ける」乳幼児の保育を行うが、保育にあたっては子どもの人権や主体性を尊重し、児童の最善の幸福のために保護者や地域社会と力を合わせ、児童福祉を積極的に増進し、地域における家庭援助を行なう。尚、児童の福祉を積極的に進める為に職員は豊かな愛情を持って接し、児童の処遇向上のため知識の修得と技術の向上に努める。又、家庭援助のために常に社会性と良識に磨きをかけ相互に啓発するものとする。</p>							
<p>保育の基本方針</p>	<p>1 養護と教育が一体となって豊かな人間性を持った子どもを育成する。 2 子どもが健康で安全に情緒の安定した生活が出来る環境を用意し、自己を十分に発揮しながら活動する事が出来るようにする事により、健全な心身の発達を図る。 3 職員が保育に臨む基本姿勢にあたっては、子どもや家庭に対して分け隔てなく保育を行い、人権を尊重し、宗教的な慈愛の心で子どもの育ちを援助するものである。 4 保育に関する要望や意見や相談に際しては、分かりやすい用語で説明をし、公的施設としての社会的責任を果たす。</p>							
<p>保育目標</p>	<p>本園は児童福祉の精神に基づき、子どもの福祉を積極的に推進するとともに、その子ども達が現在を最もよく生き、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う事を保育の目標とする。そして、子ども達の望ましい成長発達は、家庭生活と園生活の生きた結びつきがあってこそ、より完全なものとして個々の子ども達に保障される。そして、仏教保育の精神『あらゆるものの生命への慈しみの心を育てる』を基本精神とし、次の目標を掲げ、一人一人の子どもを大切に保育を進めていく。</p> <p>1 健康に子どもを育てる。(活動の土台となる健康を推し進め、基本的な生活習慣をきちんと身に付け、早寝早起きなどのきちんとした生活リズムの中で生活する。) 2 やさしい気持を育てる。(あらゆるものの生命の慈しみの心を育てる。) 3 落ち着いてしっかりとよく考えられる子どもを育てる。(日常のいろいろな生活経験を通し、自分の考えで行動し、人の話もよく聞き、人にも充分に話すことのできる主体的な態度を養う。) 4 「お互いに認め合える集団の一人となれる子ども」を育てる。(お友だちを大切に思い、他を認め、人の痛みをわかとうとする態度を養う。)</p> <p>そして、子どもたちのまわりに立つ私たち大人の生活する態度や生きる姿が、環境として、子どもたちの育ちに大きく影響する事を自覚し続け、一人一人の子どもたちを大切に思い、日々研鑽を積み、知識の修得と技術の向上に努めていきます。</p>							
<p>養護に関わる内容</p>	<p>●一人一人の子どもが自分の気持ちの安心して表すことができるようにする。●一人一人の子どもが安定感を持って過ごせるようにする。●一人一人の子どもが周囲から主体として受け止められ主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする。●一人一人の心身の疲れが癒されるようにする。●一人一人の子どもが健康で安全に過ごせるようにする。●一人一人の子どもが快適に生活できるようにする。●一人一人の子どもが健康増進が積極的に図られるようにする。●一人一人の子どもの生理的欲求が十分に満たされるようにする。</p>							
<p>わ 教 育 内 容 関</p>	<p>i おおむね6ヶ月 ～1歳3ヶ月未満</p>	<p>ii おおむね1歳3ヶ月 ～2歳未満</p>	<p>iii おおむね2歳の活動</p>	<p>iv おおむね3歳の活動</p>	<p>v おおむね4歳の活動</p>	<p>vi おおむね5歳の活動</p>	<p>vii おおむね6歳の活動</p>	<p>小学校との 接続 児童保育との 接続</p>
<p>子 ど も の 育 ち</p>	<p>〈離乳、歩行、言葉の発生〉 ・寝返り、座る、はう、立つ、つたい歩き、一人歩きといった運動機能が発達すること、及び腕や手先を意図的に動かせるようになる。 ・身近な大人との愛着関係がしっかり築けたあと、大人の受けとめや共感される事により身近な物への興味や関心を持って意欲的に関わり、外への興味が広がり探索行動へとつながっていく。 ・自分の意志や欲求を喃語や身ぶり、手ぶり一語文などで伝えようとする。</p>	<p>〈運動の発達、言葉の習得、友だちへの関心〉 ・直立二足歩行を確立する。 ・自我が芽生え生活の主人公となり、自分でしたい気持ちがふくらむ。 ・自分の思いを親しい大人に伝えたいという欲求が次第に高まり、二語文で話すようになる。 ・「～ではない～だ」と対の関係が分かり、選び取る事ができる。(自己決定の力) ・道具を道具として使用する。 ・歩行に伴い目的のある探索活動が盛んになり、外界への興味や認識が広がる。 ・身近な人の行動を模倣して、新しい行動を獲得し、自分でできる喜びを積み重ねていく。</p>	<p>〈運動機能の伸長、模倣活動・表現活動の芽生え〉 ・歩行が安定し、運動機能や指先の機能が発達する。 ・自我が芽生え、自己主張をするようになる中、自分のことを自分でしたいという思いが強くなる。 ・言葉の数が増え、言葉を言葉として使う喜び、簡単な言葉を交わす事を喜ぶ。 ・周囲の友だちを意識し、少しずつ友だちと関わる楽しさを感じる。 ・待つ、譲るなどの事が少しずつできる様になる。 ・盛んに大人の模倣をし、生活経験をもとに、大人と生活の再現遊び、見立てつもり遊び、簡単なごっこ遊びをする。</p>	<p>〈基本的生活習慣の形成 集団生活への適応の初歩〉 ・基礎的な運動能力が育つ。 ・全身バランスをとり始める。 ・基本的な生活習慣がある程度自立する。 ・自分の要求を言葉で主張する中で、友だちとぶつかり合って自分を作っていく。(自我がよりはっきりしてくる) ・少しずつ友だちと分け合ったり、順番を守るようになる。 ・ごっこ遊びに発展性がみられ、かなりの時間持続する。 ・「なぜ?」「どうして?」などの質問が盛んになり、知識欲が強くなり、言葉はますます豊かになる。</p>	<p>〈成就の喜びの体験、自立の態度〉 ・全身のバランスをとる能力が発達し、体の動きが巧くなる。 ・生活に必要な基本的な習慣をすすんでする。 ・友だちといふことの喜びや楽しさがお互いに感じられるようになり、友だちとのつながりは強まるが、競争心もおき、けんかも多くなる。 ・「〇〇だけれど〇〇する」という言葉を使い行動する。 ・保育士や友だちと関わりながら、相手の気持ちを考えたり、認め合ったりして、集団で活動する事を楽しむ。 ・友だちの中で少しずつ自分で自分の気持ちを抑えたり、我慢も出来るようになってくる。 ・自分以外の人や物をじっくりと見るようになると逆に見られる自分に気付き自意識が芽生える。(葛藤を体験する)</p>	<p>〈自立・自信の態度、生活範囲の拡大〉 ・体全体を協応させた複雑な運動ができ、集団遊びにも挑戦する。 ・日常生活の上での基本的な習慣はほとんど自立する。 ・自分なりに考えて納得のいく理由で物事の判断ができる基礎が培われる。 ・ぶつかり合いが起きて自分達で解決しようしたり、ルールを考え、生活や遊びを進めようとする。又、仲間の中の一人としての自覚や自信をつけ、集団意識が育つ。 ・形容詞、副詞などを使って言葉の表現が豊かになる。 ・仲間から批判されたり、悔しい思いを経験したりする事で思考力を育て、言葉を使って気持ちを調整する力が芽生える。</p>	<p>〈意欲的活動 自立・協調の態度〉 ・柔軟に自分の動きを調整する力が巧になってくる。 ・他人の役に立つ事が嬉しく、誇らしく感じるようになってくる。 ・集団の中で自立の力が(自分たちで解決しようしたり、生活を進めていこうとする力)育ってくる。 ・知覚、思考、想像など知的能力が発達し、友だちと互いに共感したり、表現する喜びや楽しさが味わえるようになる。 ・言葉による意志の伝達や自己統制の力が育ってくるので、言葉を主体とした遊びや共通のイメージをもって組織的に遊ぶ事が出来るようになる。</p>	<p>・就学前の子どもは小学校で健康診断を受ける。 ・幼小連絡会を年2回行う。 ・小学5年生と交流会をする。 ・小学1年生と給食交流会をする。 ・小学1年生とあそびの交流を持つ。 ・第2向陽小学校、児童のおもつき大会に保護者と一緒に参加する。 ・保育所児童保育要録の送付。</p>
<p>生 活</p>	<p>・一人一人の育ちに合わせて家庭と連携しながらミルク以外の味やスプーンから飲むことに慣れるようにし、離乳を進めて次第に幼児食に移行する。 ・保育士に食べさせてもらう中で、スプーンを持って、手づかみで、自分で食べようとする意欲が育つようになる。 ・温かい関わりの中で、ゆったりとした気持ちで一人一人の生活リズムに合わせた授乳や睡眠を行う。 ・おむつが汚れたら、優しく言葉をかけながら、こまめに替え、きれいになった心地よさを感じることができるようになる。又一人一人の排尿感覚を把握し、徐々におまる等の排泄にも興味を持てるようになる。 ・授乳、食事の前後や汚れた時は、優しく言葉をかけながら接する。</p>	<p>〈食事〉 ・温かい雰囲気の中でスプーンやフォークを使って自分で食事やおやつを喜んで食べようとする。 〈睡眠〉 ・一人一人の子どもを生活リズムを大切にしながら、安心して昼寝などができ、適切な休養がとれるようになる。 〈排泄〉 ・パンツで過ごす時間を多くもつ中、出た事や気持ち悪さに気づいて保育士に知らせたり、オマルで成功した時に保育士と喜びを積み重ねていき、オマルや便器での排泄に慣れる。 〈着脱〉 ・丁寧に優しく言葉をかけてもらいながら、自分で衣服や靴の着脱をしようとし、出来た喜びを保育士と一緒に味わう。 〈清潔〉 ・保育士と一緒に、又は自分で汚れをふきとり、きれいになった心地よさを感じる。</p>	<p>〈食事〉 ・温かい雰囲気の中でスプーンを上手に持って、落ち着いて座って食べる。 〈睡眠〉 ・安心できる雰囲気の中で、安心してできる保育士に見守られて十分に睡眠をとる。 〈排泄〉 ・尿意・便意を感じてトイレに行き、排泄をする事で、保育士と気持ちよさを味わう。 〈着脱〉 ・安心できる保育士との関係のもとで、簡単な衣服は一人で着脱しようとする。 〈清潔〉 ・顔をふく、手を洗う、鼻をふくなどを保育士の手を借りながら少しずつ自分でする。</p>	<p>〈食事〉 ・箸に興味を持ち、箸を使って食べようとする。又、こぼさないで食べようとする。 〈睡眠〉 ・保育士に寄り添ってもらいながら、午睡などの休息を充分にとる。 〈排泄〉 ・尿意、便意を感じてトイレへ向い、後始末を自分でしようとする。 〈着脱〉 ・自分で衣服の着脱や後始末をしようとする。 〈清潔〉 ・保育士の手助けにより、自分で手洗いや鼻をかむなど、清潔を保つ。又、身の回りをきれいにしようとする。</p>	<p>健康 ・自分で出来る事に喜びを持ちながら、健康・安全など生活に必要な基本的な習慣を次第に身につける。 ・身近な遊具や用具を使い、十分に体を動かして遊ぶことを楽しむ。</p>	<p>・自分で出来る事の範囲を広げながら、健康、安全など生活に必要な基本的習慣や態度を身につける。 ・安全や危険の意味や決まりが分り、危険を避けて行動する。 ・様々な遊具や用具を使い複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しむ。</p>	<p>・安全に必要な基本的な習慣や態度を身につけ、その理由(わけ)を理解して行動する。 ・体や病気について関心を持ち、健康な生活を送るために必要な基本的な習慣や態度を身につける。 ・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や、集団的な遊びを通して身体を動かすことを楽しむ。</p>	<p>2、3、4、5歳児で4つの異年齢ぐるーぶを編成し、生活や遊びの中で豊かに関わりを持ち育ち合う ・主張をぶつけ合い、やり取りを重ねる中で互いに合意していくという経験をし、子どもの自己肯定感や他者を受容する感情を育む。 ・友だちと一緒に簡単な集団遊びを楽しむ。</p> <p>仲間が必要であることを実感し、仲間の中の一人としての自覚が生まれ、自分への自信と友だちへの親しみや信頼感を高める。 ・友だちと協力して集団を作って遊びや仕事をします。</p> <p>・社会生活を営む上で大切な自主と協調の姿勢や態度を身につけていく。 ・友だち同士、お互いを認めながら協力したり、目標に向かって取り組み、最後までやり遂げる達成感や喜びを味わう。</p>

あそび	<ul style="list-style-type: none"> 寝返り、はいはい、お座り、つたい歩き、立つ、歩くなどそれぞれの状態にあった活動を十分に行うとともに、つまむ、たたく、引っ張るなどの手や指を使っての遊びを楽しむ。 特定の大人との愛着関係が更に強まり、この絆を拠りどころとして、徐々に周囲の大人に働きかけていく。 全身を動かし、手を動かす中で、身近なものへの興味や関心をもって関わり、探索意欲が芽生える。 保育士に見守られて、玩具や身の回りのもので一人遊びを十分楽しむようにする。 保育士等と視線を合わせ喃語や声、表情などを通してやり取りを喜ぶ。 保育士等に優しく語りかけられたり、あやされたりすることにより、喜んで声を出したり、喃語で応えようとする。 身近な大人との関わりを通し、喃語が豊かになる。 指さしやしぐさなどが現れ始める。 生活や遊びの中での保育士のすることに興味を持ったり、模倣したりすることを楽しむ。 保育士の歌を楽しんで聞いたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして遊ぶ。 きれいな色彩や身近なものの絵本を見て感性を豊かにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 歩けるようになることに喜びを感じ、自ら環境に関わろうとする意欲を高める。 一人歩きをくりかえす中で脚力やバランスを身につけ、登る、降りる、跳ぶ、くぐる、押す、引っ張るなどの運動を取り入れた遊びや、いじる、たたく、つまむ、転がすなどの手や指を使う遊びを楽しむ。 保育士に見守られ、好きな玩具や遊具、自然物に自分から関わり十分にひとり遊びを楽しむ。 物を媒介として、保育士と子どもとやり取りを広げてあそぶ。 大人の言うことがわかるようになると共に、指さし、身振りなどで親しい大人に自分の気持ちを伝えようとする。この関わりにより一語文、二語文を獲得する。 玩具や遊具を使って遊ぶ中、身近な大人や友だちの模倣をして遊ぶ事を楽しむ。 絵本、玩具等に興味を持ってそれらを使って遊ぶ中、見立てつもり遊びを楽しむ。 身近な音楽に親しみ、歌を歌ったり、保育士の真似をしてリズムにのって体を動かす事を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 裏山・地域・保育室・園庭などの環境を通し、子どもの心と身体を育む(走る、とぶ、のぼる等) 自分の体を思うように動かすことができるようになり、様々な姿勢をとりながら、身体を使った遊びをし、つまむ、丸める、めくるなど様々な素材を変化させ、手指を使う遊びをする。 保育士が自我の育ちを積極的に受け止めることにより、自分への自信を持つ。又、自分の行動の全てが受け入れられるわけではないことに、徐々に気づく。 探索意欲が増し、自分のしたい事に夢中になって遊ぶ。 遊具などを実物に見立てたり、「～のつもり」になって「～のふり」を楽しむ、ままごとなどの見立てつもり遊びを充分に楽しむ。 自分のしたい事、して欲しい事を言葉で表出するようになる。又、遊びの中で言葉を使うことや言葉を交わすことの喜びを感じる。 遊びや具体的活動を通して、少しずつ特定の好きな友達ができ、一緒に遊ぶ姿が見られるようになる。又、共通の体験を通しての生活遊びの中で、友だちと関わって遊ぶことの楽しさを知る。 遊びの中でハサミのり、ヘラなど、道具を道具として使っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境 言葉 表現 	<ul style="list-style-type: none"> 自然現象、事象に疑問や関心をもつ。 自然の素材の性質を知る。 身近な動植物に親しみ、その様子に興味や関心をもつ。 社会や自然の身近な事象と関わる中で豊かな感性を育む。 いろいろな物の性質の違いに関心をもつ。 身近な動植物に興味を持ち、その世話をする。 人の話を聞いたり、自分の経験したことや、思っていることを話し、伝える楽しさを味わう。 日常生活に必要な言葉がわかるようになると共に、自らの体験、絵本や童話などを見たり、聞いたりしてイメージを広げ言葉を豊かにする。 身近な事物などに関心をもち、それらの面白さ、不思議さ、美しさ等に気づく。 心動く様々な体験を通して、様々な方法で自由に表現することを楽しむ。 友だちと一緒に音楽を聴いたり、歌ったり、体を動かしたり、楽器を鳴らしたりして楽しむ。 劇ごっこを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会や自然の身近な事象と関わる中で豊かな感性を育む。 いろいろな物の性質の違いに関心をもつ。 身近な動植物に興味を持ち、その世話をする。 保育士や友だちと経験した事、考えた事などを会話をして楽しむ。人の話を注意して聞き、相手にも分かる様工夫して話す。 絵本や詩などを聞いたりして話のすじが分かり、言葉の面白さや美しさに興味を持つ。 友だちと一緒に心はずむ遊びを十分に楽しむ中、感じたこと、思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。 様々な楽器や音楽に触れ、親しみ、音色やリズムの楽しさを感じる。 見たこと、聞いたことを紙芝居や劇あそびにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な社会や自然環境などに自ら関わり、自分達の暮らしとの関係に気づき、生活の経験を深める。又、豊かな心情や知的好奇心や探求心を高める。 四季折々の伝統行事の意味を理解して参加する。 いろいろな物の性質の違いを知り、試したり、工夫したりする。 身近な動植物をいたわったり、大切にしたり、世話をしたりする。 みんなで共通の話題について話し合うことを楽しむ。 生活の中で必要な言葉や相手、場面の違いにより使う言葉が変わる事に気づき、豊かに正しく使う。 身近な絵本、文字に触れて、言葉の興味を広げる。 友だちの意見を注意して聞き、理解する。 日常のあいさつ、伝言、応答、報告が上手に出来るようになる。 共通の目的を持ち、協力し合って自由な方法で表現したり、感動、発見、想像を通じた創造的な心はずむ豊かな遊びを友だちと一緒に十分に経験する。 様々な楽器に触れ親しみ、音色やリズムの楽しさを感じ、みんなで心をひとつにして、演奏する楽しさを味わう。 見たこと、聞いたこと、感じたことをいろいろな形で劇的表現をする。
食育	<ul style="list-style-type: none"> 食事を通し、いろいろな味や食感を知り、偏りのない食事の基礎をつくる。 様々な食品に慣れ、食材そのものの味に親しみ、味覚の幅を広げる。 一人一人の育ちに合わせて、無理のないように食品に慣れさせ、家庭と連携しながら離乳を進めて次第に幼児食に移行する。 保育士に食べさせてもらう中で、手づかみや、スプーンを持って自分で食べようとする意欲が育つようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 暖かで親しみのある雰囲気の中で落ち着いて食事をする。 色々な食べ物を見る、臭う、触る、噛んで味わう経験を通して食材に興味を持ち、自分で進んで食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> クッキングや給食の手伝いなどを通して、食材に興味を持ち、食に対する興味や意欲を膨らませていく。 楽しい雰囲気の中、自分で食べようとする。 好き嫌いがはっきりしてくる中、苦手なものも保育士や他児との関わりの中で食べようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちや保育士と一緒に食事のマナーを知り、楽しい雰囲気の中で食事をする。 	<ul style="list-style-type: none"> クッキングや給食の手伝い(野菜洗いや皮むき等)、野菜の栽培を通して、食に興味や関心を持つ。 食べた物と体に関心をもち、箸や食器の持ち方、姿勢など、食事のマナーが身につく。友だちと一緒に楽しく食事をしたり、様々な食べ物を食べる楽しさを味わう。 食べた物と体の関係を知る。 食べる楽しさや食への関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 食を通し、自らの健康や自然との関わり、食文化への関心を高め、より楽しんで食事をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 食を通し、自らの健康や自然との関わり、食文化への関心を高め、より楽しんで食事をする。
家庭との連携 保護者への協働 (指導)	<ul style="list-style-type: none"> 懇談会や日々の会話、お便りを通して、子どもの育ちについて共に話し、共通理解をする。 行事・保育参加を通して、子どもの姿や生活の様子を知ってもらう。 規則正しい生活リズムで過ごせるよう、家庭へ呼びかける。 子どもの体調や姿について、家庭と連絡をこまめにとる。 支援が必要な子どもには関係機関と十分に連携をとるようにする。 子どもの生活や育ちに関わる行政からの情報や保育園からの連絡事項等はメールにて発信し共有する。 						
保 健	<ul style="list-style-type: none"> 時期に応じ、感染症の発生状況を知らせる。 空気清浄機、クーラー、温度湿度計による対応(加湿、除湿、除菌、脱臭)。 玩具、保育環境の衛生管理。 予防接種の奨励。 保健所、園医等関係機関との連携。 毎月、職員検便検査。 健康発育発達状況の把握。 心身状態や家庭生活、養護状態の把握。 毎月 身体測定。 年2回 内科健診、歯科健診、ぎょう虫・尿検査。 年1回 眼科健診 視力検査。 異常が認められたときの対応。 保育中に体調不良やけがなどに見舞われた園児の適切な処置及び医務室での看護師による看護(体調不良児対応自園型)。 害虫駆除をする。 手洗い、うがいを励行する。 戸外では帽子をかぶる。 夏期に微量の塩を入れたお茶を飲む(熱中症対策)。 内臓未発達のため不必要な過剰摂取を防ぐための給食を提供する(塩分、糖分等)。 						
地 域 活 動	<ul style="list-style-type: none"> おひさま(地域子育て支援事業)・散歩 一時保育 園庭開放 おやつ作り講習会 中学生の職場体験学習 バザー 夏祭り お月見会 おもちつき おじいちゃん、おばあちゃんとの交流会 ボランティア、実習生の受入れ 地域のゴミ拾い(4、5、6歳) ディケアセンター・病棟の方との交流(5、6歳) 						